

19 ロービジョンケア開始時の問診票 — 全国調査 —

病院 リハビリテーション部 ロービジョン訓練 西脇 友紀 久保 明夫
病院 第二診療部 眼科 西田 朋美 仲泊 聡

【目的】ロービジョン（以下LV）ケアは、患者の主訴やニーズを把握することから始まるが、これを的確に把握するには工夫がいる。その一つに問診票の使用があるが、活用状況についての調査は見当たらない。今回われわれは、全国のLVケア実施施設に対してLVケア開始時の問診票に関する全国調査を行ったので、その結果について報告する。

【対象と方法】2010年7月15日現在、LVケア実施施設リスト（日本眼科医会ホームページ、日本ロービジョン学会ホームページ、視覚障害リソース・ネットワーク‘VIRN’ホームページ）のいずれかに掲載されている320施設を対象に、1)現在、LVケアを行っているか否か、2)LVケア開始時の問診票（調査票等；以下同）使用の有無について郵送による調査を行った。

次に2)でLVケア開始時に「決まった問診票を使用する」と回答した43施設を対象に、3)問診票の回答を聴取する際の平均的所要時間、4)設問数の妥当性、5)使用にあたり参考にした既存の問診票の有無と有る場合はその内容、6)改善点の有無と有る場合はその内容について、郵送による調査を行った。

【結果】1)有効回答施設214（回収率68%）のうちLVケア実施施設は180（84%）、非実施施設は34（16%）であった。2)ロービジョン開始時の問診を「とくに行っていない」施設は26（14%）、「問診のみ（とくに決まった形式の問診票は使用しない）」実施する施設は109（61%）、「決まった問診票を使用する」施設は43（24%）、その他（症例に応じて使用）が2施設（1%）であった。3)問診票を使用すると回答した38施設（回収率88%）のうち、平均的所要時間は、5分程度と回答した施設が4（11%）、10分程度が6（16%）、15分程度が11（29%）、30分程度が7（18%）、30分以上が6（16%）5分または15分程度が2（5%）、15分または30分程度が2（5%）であった。4)現在使用している問診票の設問数についての回答は、「少ない」が5施設（13%）、「多い」が6（16%）、「適当である」が26（68%）であった。5)既存の問診票を参考にした施設が25（66%）、施設独自で考案したものが13（34%）であった。参考にした既存の問診票などのうち、回答数が多かったのは、LVケア関連書籍に掲載されている質問表や、多くのLV患者に対応している施設でLVケア用に試作された評価表であった。6)改善の有無に関する回答は、「あり」が25施設（66%）、「なし」または特に記載のない施設が13（34%）であった。改善点の内容は、設問数や回答選択肢数の減少、設問の内容や順番の検討などであった。

【考察】LV開始時に問診票などを使用するか否か、また使用する場合の内容については、施設の規模、対象患者の疾患・年齢、スタッフの人数・職種・技術などにより、適する内容が異なるものと思われる。問診の形式に関しては、問診票などに多く使用される多項目のClosed Question（回答はYes/No）形式と、患者の自然な語りの中でニーズを引き出しやすい自由回答形式のOpen Questionの長所短所を考慮し、組み合わせを検討するなど、より適した問診形式の検討が必要であると思われる。